

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年12月15日
【四半期会計期間】	第118期第3四半期（自 平成26年8月1日 至 平成26年10月31日）
【会社名】	株式会社ナイガイ
【英訳名】	NAIGAI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 泉 潔
【本店の所在の場所】	東京都台東区柳橋二丁目19番6号
【電話番号】	東京(03)5822 - 3810
【事務連絡者氏名】	取締役管理部門担当 市原 聡
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区柳橋二丁目19番6号
【電話番号】	東京(03)5822 - 3810
【事務連絡者氏名】	取締役管理部門担当 市原 聡
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第117期 第3四半期連結 累計期間	第118期 第3四半期連結 累計期間	第117期
会計期間	自平成25年 2月1日 至平成25年 10月31日	自平成26年 2月1日 至平成26年 10月31日	自平成25年 2月1日 至平成26年 1月31日
売上高 (百万円)	12,213	12,371	17,526
経常利益又は経常損失( ) (百万円)	137	20	98
四半期純損失( )又は当期純利益 (百万円)	151	48	80
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	389	43	628
純資産額 (百万円)	8,111	8,397	8,354
総資産額 (百万円)	14,471	14,216	13,404
1株当たり四半期純損失金額 ( )又は1株当たり当期純利益金額 (円)	1.85	0.59	0.98
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	55.9	58.8	62.1

回次	第117期 第3四半期連結 会計期間	第118期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年 8月1日 至平成25年 10月31日	自平成26年 8月1日 至平成26年 10月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	0.11	1.66

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

- (1) 当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある新たな事項は発生していません。
- (2) 前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績に関する分析

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、消費税増税前の駆け込み需要の反動減による個人消費の落ち込みに加えて、実質所得の低下や、急激な円安による原材料費の高騰を受けて、企業収益が不安定な状況となっていること等を背景に、伸び悩む状況が続いています。

衣料品業界におきましては、8月下旬からの気温の低下に伴って秋物が昨年より早く動き出したことで店頭販売がやや持ち直したものの、台風が相次いで接近、上陸するなど不安定な天候の影響があり前年実績には届かず、消費税増税後のマインド低迷や調達コスト上昇といった逆風が続いており、依然厳しい状況です。

こうした中、当社グループは、第2四半期に引き続きまして、レッグウェアのジャストシーズン商品の販売強化、メンズアンダーウェアの販売強化、ネット通販事業の拡大など、増収、増益に向けた取組みを進めてまいりました。

卸売り事業につきましては、店頭販売が総じて堅調に推移して前年実績を上回り、プロパー販売比率が高まったことで利益率が改善し増益となりました。

通信販売事業は、概ね計画通りの販売と利益を確保し、前年同期に対して増収増益となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、12,371百万円（前年同期比1.3%増）、営業損失は130百万円（前年同期比70百万円の増益）、経常損失は20百万円（前年同期比117百万円の増益）、四半期純損失は48百万円（前年同期比103百万円の増益）となりました。

セグメント別の業績概要は以下の通りです。

#### (卸売り事業)

卸売り事業の主体であるレッグウェア事業では、百貨店・専門店販路は、気温の低下に合わせて単価の高い防寒ソックス、タイツ、ルームソックスが昨年よりも早く動き出し、紳士、婦人ソックスの店頭販売が前年実績を大きく上回っており、それに伴いプロパー販売比率が高まったことで利益率が改善し、増益となりました。メンズアンダーウェアは、展開店舗及び展開スペースの増加により店頭販売が順調に推移しました。

量販店販路につきましては、店頭販売はやや厳しい状況ですが、展開商品の品揃えが計画通りに進んだことで売上、利益共に順調に推移しています。

その他卸売り事業は、株式会社NAP（量販店向け紳士カジュアルシャツ販売）が、苦戦を強いられたものの、ロンデックス（ゴム製品関連の製造販売）は、ゴム系の原料が安値で安定したことと、生産量UPに伴うコスト削減により増収増益となりました。OEM、輸出、海外子会社の事業については概ね前年並みの売上となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の卸売り事業全体の売上高は、10,022百万円（前年同期比0.1%増）、営業損失は147百万円（前年同期比62百万円の増益）となりました。

#### (通信販売事業)

通信販売事業につきましては、株式会社ナイガイ・イムが、テレビショッピングの番組数が前年から増加となり、商品原価率の改善と経費削減に努めた結果、前年を上回る実績となりました。

インターネットショッピングを展開するセンチールワン株式会社は、販促活動の効果で上期から引続き売上が好調に推移しており、経費削減にも努めた結果、引続き増収増益となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の通信販売事業全体の売上高は、2,542百万円（前年同期比4.3%増）、営業利益は21百万円（前年同期比146.3%増）となりました。

(2)財政状態に関する分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に対して812百万円増加し、14,216百万円となりました。流動資産では、現金及び預金が339百万円、商品及び製品が853百万円増加し、受取手形及び売掛金が296百万円減少しました。固定資産では、投資有価証券が時価の上昇により92百万円増加しました。

負債は、前連結会計年度末に対して769百万円増加し、5,819百万円となりました。支払手形及び買掛金と電子記録債務が672百万円、借入金が長短合わせて143百万円増加しました。

純資産につきましては、四半期純損失48百万円とその他有価証券評価差額金の増加73百万円等により、前連結会計年度末に対して42百万円増加し、8,397百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ3.3ポイント減少し、58.8%となりました。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4)研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	278,000,000
計	278,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年10月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年12月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	82,172,815	82,172,815	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	82,172,815	82,172,815	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年8月1日～ 平成26年10月31日	-	82,172,815	-	7,691	-	1,997

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 28,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 81,530,000	81,530	-
単元未満株式	普通株式 614,815	-	-
発行済株式総数	82,172,815	-	-
総株主の議決権	-	81,530	-

【自己株式等】

平成26年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ナイガイ	東京都台東区柳橋二丁目19番6号	28,000	-	28,000	0.03
計	-	28,000	-	28,000	0.03

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年8月1日から平成26年10月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年2月1日から平成26年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年10月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,653	2,993
受取手形及び売掛金	3,614	3,317
商品及び製品	3,207	4,060
仕掛品	13	9
原材料及び貯蔵品	74	77
その他	339	238
貸倒引当金	35	30
流動資産合計	9,867	10,667
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	43	37
土地	74	78
その他(純額)	122	105
有形固定資産合計	240	221
<b>無形固定資産</b>	334	275
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,746	2,838
その他	247	245
貸倒引当金	32	32
投資その他の資産合計	2,961	3,051
固定資産合計	3,536	3,549
資産合計	13,404	14,216



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	816	1,233
電子記録債務	901	1,156
短期借入金	694	817
未払法人税等	34	25
賞与引当金	22	78
返品調整引当金	337	244
その他	595	524
流動負債合計	3,401	4,081
固定負債		
長期借入金	300	320
退職給付引当金	1,048	1,072
繰延税金負債	265	310
その他	34	34
固定負債合計	1,648	1,737
負債合計	5,050	5,819
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,691	7,691
資本剰余金	6,781	6,781
利益剰余金	6,900	6,949
自己株式	1	2
株主資本合計	7,570	7,521
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	663	737
為替換算調整勘定	93	106
その他の包括利益累計額合計	756	844
少数株主持分	26	31
純資産合計	8,354	8,397
負債純資産合計	13,404	14,216

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年2月1日 至 平成25年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年2月1日 至 平成26年10月31日)
売上高	12,213	12,371
売上原価	8,026	8,173
売上総利益	4,186	4,197
販売費及び一般管理費	4,387	4,328
営業損失 ( )	201	130
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	22	23
為替差益	87	101
その他	19	35
営業外収益合計	130	161
営業外費用		
支払利息	22	17
持分法による投資損失	38	22
その他	6	11
営業外費用合計	67	51
経常損失 ( )	137	20
特別損失		
投資有価証券評価損	-	4
特別損失合計	-	4
税金等調整前四半期純損失 ( )	137	24
法人税、住民税及び事業税	22	25
法人税等調整額	10	5
法人税等合計	11	20
少数株主損益調整前四半期純損失 ( )	149	44
少数株主利益	2	3
四半期純損失 ( )	151	48

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	149	44
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	418	69
為替換算調整勘定	62	14
持分法適用会社に対する持分相当額	57	4
その他の包括利益合計	538	88
四半期包括利益	389	43
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	383	38
少数株主に係る四半期包括利益	5	4

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年10月31日)
減価償却費	103百万円	105百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年2月1日至平成25年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	卸売り事業	通信販売 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	9,774	2,438	12,213	-	12,213
セグメント間の内部売上高又は 振替高	235	-	235	235	-
計	10,010	2,438	12,448	235	12,213
セグメント利益又は損失( )	209	8	200	0	201

(注)1.調整額はセグメント間の取引消去であります。

2.セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年2月1日至平成26年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	卸売り事業	通信販売 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	9,832	2,538	12,371	-	12,371
セグメント間の内部売上高又は 振替高	189	4	193	193	-
計	10,022	2,542	12,564	193	12,371
セグメント利益又は損失( )	147	21	125	5	130

(注)1.調整額はセグメント間の取引消去であります。

2.セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年10月31日)
1株当たり四半期純損失金額	1円85銭	0円59銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(百万円)	151	48
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(百万円)	151	48
普通株式の期中平均株式数(株)	82,135,024	82,149,418

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年12月11日

株式会社ナイガイ

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 努 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小林 弘幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ナイガイの平成26年2月1日から平成27年1月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年8月1日から平成26年10月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年2月1日から平成26年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ナイガイ及び連結子会社の平成26年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。